

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24401014

研究課題名(和文) アラブ諸国における民主化運動の非アラブ・ムスリム社会への波及

研究課題名(英文) The Effects of the Spread of Pro-Democracy Movements in Arab States on Non-Arab Muslim Societies

研究代表者

内藤 正典 (NAITO, MASANORI)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：10155640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2011年に始まったアラブ諸国の民主化要求運動が、非アラブのムスリム社会に対していかなる影響を与えているのかを(1)民主化運動の中核となったエジプト、(2)先行して民主化改革を実行しつつあったトルコ、(3)民主化と体制の変革が安全保障上重要な意味をもつイラン、アフガニスタン、(4)世界最大のムスリム人口を擁するインドネシア、(5)母国の民主化を注視する西欧のムスリム移民社会を対象として明らかにした。その結果、研究期間後半の段階で見られた「イスラム国」の台頭やトルコの民主化からの逆行傾向と共に「中東」という地域を構成する領域国民国家の秩序が根底から揺さぶられている現実が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study examines the effects that the pro-democracy movements that began in 2011 in various Arab states are having on non-Arab Muslim societies, specifically examining the following: (1) Egypt, which became the core of the pro-democracy movements; (2) Turkey, which set a precedent in implementing democratic reforms; (3) Iran and Afghanistan, where democratization and structural reform are of key significance in terms of security; (4) Indonesia, which has the highest Muslim population in the world; and (5) Muslim migrant societies in Western Europe, which keep a keen watch on the democratization of their home countries. Accordingly, along with the retrogressive trend now manifesting in Turkey's democratization and the rise of Islamic State (IS, also referred to as ISIS and ISIL) seen in the latter stages of the research period, it is evident that the order of the territorial nation states of the Middle East is currently being shaken to its very foundations.

研究分野：地域研究

キーワード：アラブの春 中東民主化 イスラーム トルコ 社会学 地域研究 「イスラム国」

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、いわゆる「アラブの春」は一定の成果を挙げるか、頓挫するか、両方の可能性のはざまにあった。民主化の要求は当然、アラブ以外のイスラーム世界にも同様の問題が山積していたところから波及が予想されたものの、それがいかなる方向に進行するのは不明であった。

また、多くのムスリム移民を擁するヨーロッパ諸国においても、移民統合政策が多くの問題に直面していたところから、欧米諸国に対していかなる影響を与えるのかを見極め、その構造的要因を探究することが当初の問題意識であった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、2011年にアラブ諸国で発生した民主化要求の運動が、非アラブのムスリム諸国に対していかなる影響を与えているのかを実証的に明らかにすることを目的とした。メディアを通じては表出しなかったアラブ諸国での民主化運動の様態について、進行中の事象を詳細に集積し、かつそれらが世界における安全保障にとって喫緊の課題となっている国(地域)、日本にとって重要な意味を持つ国(地域)にいかに波及するかを同時並行的に調査した。

(2) 非アラブ圏への波及に焦点を当てると、本研究が注目してきた視軸は次のとおりである。民族主義と民主化との関係性、イスラーム主義、特にイスラームに固有の公正観とその実現がどの程度に波及しうるか、過去10年、西欧諸国からの圧力を受けたことに対して、西欧諸国における民主主義との整合性を担保しようとするのか否か。これらを基に、(1)民主化運動の中核となったエジプト、(2)今回の民主化運動に先行するかたちで民主化を達成しつつあるトルコ、(3)民主化と体制の変革が安全保障上きわめて重要な意味をもつイラン、アフガニスタン、(4)世界最大のムスリム人口を擁するインドネシア、(5)自らは民主主義体制下でありながら母国の民主化を注視している西ヨーロッパのムスリム移民社会(具体的にはフランス、ベルギー、オランダ、ドイツ)を対象に調査・研究を実施することとした。

3. 研究の方法

(1) 対象とする地域(国)が広大なため、個別の調査・研究内容は多岐にわたったが、焦点となったのは、ムスリム同胞団の動向(エジプト)、公正・発展党政権の世俗主義からの離反動向(トルコ)、宗教指導者と民主化運動の連携の変容(イラン)、反カルザイ派がタリバンに糾合されるか否か(アフガニスタン)、イスラーム組織の政治参加の動向(ヨーロッパ諸国)、地域別のイスラーム主義勢力による反体制運動の実態(インドネシア)の各項目である。

(2) 対象地域(国)に共通する調査・研究内容としては、反体制運動の組織実態と行動内容および政治的志向性(西欧型民主化か、イスラーム主義型か、それ以外か)、マスメディアの報道動向の分析、SNSが民主化運動に果たしている機能(政権側からの攪乱の実態も併せて)、宗教指導者の政権との関係における変化の有無(あるとすればどのような方向に変化しているか)という点であった。さらに「イスラーム国」出現以降は、本研究対象地域(国)と同組織との接点についても注意深く検討を行った。

4. 研究成果

(1) 2011年に始まったアラブ諸国での民主化運動は、当初、「アラブの春」と言われて中東民主化を促すかにみえた。しかしながら、アラブ諸国における民主化はチュニジアにおいて一定の成果を収めたものの、エジプトはシーシ政権によるクーデタによって阻害され、リビアは崩壊の危機、シリアは4年に渡る内戦に陥り、イラクは分裂の危機、イエメンもまた崩壊寸前となった。中東地域の諸国がこれだけ一気に不安定する状況はいまだかつてなかった。この間、「イスラーム国」という新たなイスラーム主義武装組織が登場したことは、世界を震撼させた。本研究に属する研究者は、後半の段階で、シリア内戦、イラク分裂の帰結としての「イスラーム国」の台頭というこれまで中東・イスラーム世界が経験したことのない深刻な病理と向き合うことになった。本研究に参加する個々の研究者は、「中東」という地域を構成する領域国民国家の秩序が根底から揺さぶられているという現実認識に立って、各国、各学問領域における研究を遂行した。

(2) 同時に、2015年1月には、フランスを震撼させるシャルリー・エブド襲撃等同時テロ事件が発生した。事件は、中東・イスラーム世界の側でのイスラーム主義過激派組織の動向と同時に、ヨーロッパ社会における移民、格差、表現の自由の諸問題の重層的構造から成る。とりわけ表現の自由に関しては、西欧世界が普遍的とする価値とイスラーム世界の価値との間に、ある種の共約不可能性が存在することをうかがわせており、今後、領域国民国家体制の限界とともに、より広い視野でのイスラーム地域研究に必要な視角となると考える。

(3) 本研究では、参加研究者の専門とするトルコ、イラン、エジプト、ヨーロッパの諸地域について、急速に展開した民主化への要求が、様々な反動をもたらすメカニズムについて研究が行われてきたが、今後はそれらを統合する研究へと深化させることが課題となろう。今後の重点課題として、具体的には、中東・イスラーム世界における領域国民

家体制の限界と打開策の模索、 西欧世界の諸価値の体系とイスラーム世界の諸価値の体系との共約不可能性が、今日の中東・イスラーム世界諸国の領域国民国家体制に軋みをもたらしていることを勘案し、ムスリム諸国間の安全保障の枠組みを再検討していくという2点にある。 については、「イスラーム国」の台頭が、今後の近隣諸国に何をもたらすかを主題とする。 については、特にヨーロッパおよびアメリカがイスラーム社会との共生を図るうえで、一種の「講和」に類する発想を持つための条件を検討することが主題となろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計30件)

- (1) イディリス・ダニシマズ「イスラーム世界と教育—トルコの奉仕運動のグローバル教育支援の理念と実践」『比較教育学研究』査読無, Vol. 50, 2015年, 222-233頁
- (2) 横田貴之「ムスリム同胞団ハサン・バンナーの『行動の思想』」『史林』査読有, 第98巻第1号, 2015年, 172-201頁
- (3) Takayuki YOKOTA ed., *Revisiting Islamism in the Middle East after the “Arab Spring”* (SIAS Working Paper Series No. 25), 査読無, IAS Center at Sophia University (SIAS), 2015年, 82+頁
- (4) 内藤正典「「イスラーム国」問題の縮図としてのトルコ—なぜ米軍の武力行使に協調しないのか」『世界』査読無, No.863, 2014年, 196-205頁
- (5) 内藤正典「トルコは不安定化するのか—内政と外交の危機」『国際問題』査読無, No.629, 2014年, 29-41頁
- (6) 内藤正典「中東崩壊の危機とトルコ」『中東協力センターニュース』査読無, 8/9号, 2014年, 45-51頁
- (7) 中西久枝「平和構築と地域研究—今何が求められているか」『地域研究』査読有 Vol.14, No.1, 2014年, 106-121頁
- (8) Hisae NAKANISHI “The Challenges of State Security National Integration in the Middle East” *Conference Proceeding of Challenges to Democratization in the Middle East: The US, Turkey, and the Arab World, at the Auditorium of New York Institute of Technology, New York, 28 April 2014*, 2014, pp1-6
- (9) Ken MIICHI “The Role of Religion and Ethnicity in Jakarta’s 2012 Gubernatorial Election”, *Journal of Current Southeast Asian Affairs*, 査読有, 33(1), 2014年, 55-83頁
- (10) 見市建「ユドヨノ政権期における政治・宗教市場と新たな指導者の模索」川村晃一編『ユドヨノ政権の10年と2014年の選挙 調査研究報告書』査読無, 2014年, 30-44頁
- (11) 嶋田晴行「国家であることの苦しみ、

- ゆらぎ-アフガニスタンの事件から」『-Synodos』査読無, 162 + 163, 2014年, 198-226頁
- (12) 岩坂将充「トルコにおける『民主化』の手法—文明化過程にみる『制度』と『思想』の相互作用」『国際政治』, 査読有, Vol. 178, 2014年, 132-145頁
- (13) 横田貴之「ムバーラク政権によるムスリム同胞団のコオペレーションの再考」『アジア経済』査読有, 55/1, 2014年, 9-27頁
- (14) 横田貴之「エジプト・ムスリム同胞団の危機と今後の展望」『中東研究』査読無, Vol. 519, 2014年, 14-21頁
- (15) Hisae NAKANISHI & Elisa MONTIEL-WELTI, “Human Security in Non-conflict States: A Case of Afghan Unaccompanied Children in the UK” 『同志社グローバル・スタディーズ』査読有 Vol.4, 2014年, 3-27頁
- (16) 中西久枝「平和構築と地域研究—今何が求められているか」『地域研究』査読有, No.14-1, 2014年, 106-121頁
- (17) 内藤正典「民主主義の危機としての中東騒乱—トルコとエジプトで何が起きているのか」『世界』査読有, No.847, 2013年, 238-247頁
- (18) 内藤正典「トルコは何を望んでいるのか—外交での勝利と内政での賭け」『世界』査読有, No.844, 2013年, 20-24頁
- (19) 内藤正典「中東・イスラーム世界の流動化と西欧世界の教訓」『世界』査読有, No.842, 2013年, 294-301頁
- (20) 中西久枝「イラン・シリア関係の推移と今後のシリア情勢」『中東研究』査読有, 516巻, 2013年, 27-33頁
- (21) 中西久枝「ホルムズ海峡の大島ケシム島にみるイランのソフトパワー」『Ship Ocean Newsletter』査読無, No.307, 2013年, 6-7頁
- (22) 見市建「現代インドネシアにおけるイスラーム、メディアと政治」『ワセダアジアレビュー』査読無, Vol.14, 2013年, 60-65頁
- (23) 見市建「中東政変の報道にみるインドネシアのイスラーム主義の現在」『インドネシア・ニュースレター』査読無, No.84, 2013年, 2-11頁
- (24) 子島進・イディリス・ダニシマズ「ムスリム NGO の理念と活動—パキスタンとトルコの事例から」『東洋大学アジア文化研究年報』査読有, 第47号, 2013年, 116-124頁
- (25) 横田貴之「混迷するエジプト政治」『インテリジェンスレポート』査読無, Vol.62, 2013年, 17-27頁
- (26) 内藤正典「中東変貌の展望—「アラブの春」はイスラーム主義者にハイジャックされたのか」『中東研究』査読有, 514巻, 2012年, 7-14頁
- (27) 見市建「インドネシアにおけるイスラーム主義急進派の位置付け」『海外事情』査読無, 60 - 4巻, 2012年, 61-73頁
- (28) 見市建・師岡カリーマ・エルサムニー「等身大でイスラーム世界を理解するために」

『をちこち』(ウェブマガジン) 査読無, 2012年
URL: <http://www.wochikochi.jp/topstory/2012/06/Isamic-World.php>
(29) 見市建「映画にみるインドネシアの中間層文化、宗教と政治」『アジ研ワールド・トレンド』 査読無, 204巻, 2012年, 20-21頁
(30) 見市建「インドネシアのイスラーム」『月刊インドネシア』 査読無, 10月号, 2012年, 4-12頁

〔学会発表〕(計 38件)

(1) Hisae NAKANISHI “The linkage between Nuclear Negotiations and the US-Iran Conflict and Cooperation”, International Conference on “Iran, America and Islamic State: Emerging Challenges in the Middle East, Views from Iran” 2015年2月16日, 同志社大学(京都)
(2) Hisae NAKANISHI “The Construction of the Sanction Regime against Iran: Political and Strategic Dimensions”, Center for Iranian Studies, Columbia University, 2014年12月3日, Center for Iranian Studies, Columbia University (U.S.A.)
(3) Hisae NAKANISHI “Economic Sanctions against Iran and Security Policies of Iran”, Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University, 2014年11月14日, Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University (U.S.A.)
(4) Hisae NAKANISHI “Iran’s Nuclear Problem”, Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University 2014年11月7日, Department of Asian and Middle Eastern Studies, Duke University (U.S.A.)
(5) Masanori NAITO “Orta Doğu Kaynaklı İstikrarsızlık ve Türkiye ’nin Rolü, Japonya ’dan bir bakış”, JAPONYA-TÜRKİYE ORTAK SEMPOZYUMU, JAPONYA VE TÜRKİYE : NEREDEN GELDİK, NEREYE GİDİYORUZ?”, 2014年9月22日, Hilton Ankara (Turkey) (招待講演)
(6) Ken MIICHI “Why Malaysia and Indonesia are so different?: Analysis on Islamic Market”, ABIM Lecture series, 2014年2月10日, Dar al Hikmah College (Saudi Arabia) (招待講演)
(7) 見市建「インドネシアにおける地方首長の台頭とアカウンタピリティの政治」日本比較政治学会, 2014年6月28日, 東京大学(東京)
(8) 嶋田晴行・中津雅昭「アフガニスタンと選挙の親和性—2014年の大統領選挙を例に」日本南アジア学会第27回全国大会, 2014年9月27日, 大東文化大学(東京)
(9) 見原礼子「ヨーロッパのモスクにおけるノンフォーマルな学びの多様性」日本比較教育学会第50回大会ラウンドテーブル, 2014年7月11日, 名古屋大学(愛知)
(10) イディリス・ダニシマズ「道徳的価値から社会的価値へトルコにおける市民運動

の人的支援活動」同志社大学—神教学際研究センター研究会, 2014年10月11日, 同志社大学(京都)

(11) イディリス・ダニシマズ「イスラーム世界と教育：トルコの奉仕運動のグローバル的教育支援の理念と実践」日本比較教育学会第50回大会公開シンポジウム『グローバル化する世界における教育と宗教者の役割』2014年7月12日, 名古屋大学(愛知) (招待講演)

(12) Idiris DANISMAZ “An Analytic Framework of the Turkish Model”, The 4th World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), 2014年8月19日, Bilkent University (Turkey)

(13) Masamichi IWASAKA “Civilianization Process of Politics and Democratization in Turkey”, The 4th World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), 2014年8月19日, Middle East Technical University (Turkey)

(14) 岩坂将充「トルコにおける『民主化』と憲法裁判所—体制移動と正統性付与の観点から」日本比較政治学会, 2014年6月28日, 東京大学(東京)

(15) 横田貴之「ムスリム同胞団の『行動の思想』ハサン・バンナーを中心に」2014年度史学研究会例会, 2014年4月19日, 京都大学(京都) (招待講演)

(16) Takayuki YOKOTA, Suechika K and KIKKAWA T, “Re-Configured Islamist Geopolitics after the Arab Spring: Emergence of New Islamic Community in Muslim Brotherhood’s International Nexus,” ISA PDG-Collegium Civitas Joint Eurasia Conference, Warsaw 2014, June 18, 2014, Collegium Civitas (Poland)

(17) 中西久枝「中東の民主化と紛争予防 シリア問題とイラン核交渉の前進を中心に」日本平和学会中四国研究会, 平成25年度第2回HPI研究フォーラム, 2014年1月22日, 広島平和研究所(広島) (招待講演)

(18) イディリス・ダニシマズ「トルコの宗教と文化」多元主義研究会, 2014年2月23日, 大正大学(京都) (招待講演)

(19) イディリス・ダニシマズ「トルコにおけるイスラームと宗教教育」特別講演 2014年1月9日, 関西大学(大阪) (招待講演)

(20) 内藤正典「トルコ騒乱と中東の安全保障」日本記者クラブ, 2013年6月21日, 日本プレスセンター・ビル(東京) (招待講演)

(21) Hisae NAKANISHI “Unilateralism and International Cooperation”, Symposium on Unilateral Sanctions and International Law: Views on Legitimacy and Consequences, 2013年7月11日, T.M.C. Asser Institution (The Netherlands) (招待講演)

(22) Hisae NAKANISHI “Democracy in the Middle East: Challenges and Prospects”, Center for Dialogue of Civilizations and Cooperation, 2013年3月7日, Jakarta (Indonesia), (招待講演)

(23) 見市建「マレーシアとインドネシアはなぜこんなに違うのか：イスラームの組織化

から考える」マレーシア学会, 2013 年 12 月 15 日, 同志社大学 (京都)

(24) Ken MIICHI “Re-discovery of Islamic Market in Market in Indonesia and its Political Context”, Business, Management and Environment: A Comprehensive Study in Asian Economy, 2013 年 10 月 29 日, Mercu Buana (Indonesia)

(25) Ken MIICHI “Changing Faces of Islamic Organizations and Political Parties in Indonesia: Analysis through Opinion Survey”, LIPI Seminar, 2013 年 9 月 11 日, Jakarta (Indonesia) (招待講演)

(26) Ken MIICHI “How Islam (not) Works in Politics of Jakarta”, The International Convention of Asia Scholars (ICAS), 2013 年 6 月 24 日 ~ 2013 年 06 月 27 日 (Macau)

(27) 見市建「2012 年ジャカルタ州知事選における「宗教的キャンパス」と社会的亀裂」東南アジア学会, 2013 年 6 月 2 日, 鹿児島大学小郡元キャンパス (鹿児島)

(28) Ken MIICHI “How Religions (not) Work on Jakarta’s Gubernatorial Election in 2012: Contemporary Social Changes and Cultural Plurality within Muslim Politics”, Socio Political and Economic Reform in Southeast Asia, LIPI-CSEAS Kyoto University, 2013 年 3 月 9 ~ 12 日, Jakarta (Indonesia)

(29) Haruyuki SHIMADA “Fragile States: Why We Should Care”, Panel Discussion at 2013 Annual Conference of Society for International Development, 2013 年 6 月 6 日, Washington D.C. (U.S.A.) (招待講演)

(30) 見原礼子「ムリズムと子どもの教育をめぐる課題」第 49 回日本比較教育会ラウンドテーブル, 2013 年 7 月 5 日, 上智大学 (東京)

(31) Takayuki YOKOTA, Kota SUECHIKA, and Takuro KIKKAWA “Islamism in Democratizing States: Comparative Studies on the Muslim Brotherhood Movements in Egypt, Syria and Jordan after the 2011 Arab Spring”, PSS-ISA Joint Conference, 2013 年 6 月 28 日, Budapest (Hungary)

(32) 内藤正典「中東の政治変動と再イスラーム化—民主化の - モデルとしてのトルコ」JIME Center-IEEJ International Symposium 2012, Balance of Powers in the Middle East after the “Spring”, 2012 年 11 月 16 日, 東京 (招待講演)

(33) Masanori NAITO “Orta Doğu’daki Siyasi Değişiminin Geleceği: “Arap Baharı” İslamcılar tarafından sabote mi edilmiş?”, International Interdisciplinary Social Inquiry Conference - IISIC 2012, 2012 年 6 月 20 日, University of Uludag (Turkey) (招待講演)

(34) Idiris DANISIMAZ “Civil Society Organizations in Turkey and Their Contribution to a More Livable World” Dialogue for the Future Between Japan and the Islamic World (held by the MOFA of Japan), 2012 年 12 月 6 日, 東京

(招待講演)

(35) イディリス・ダニシマズ「世界につながるイスラーム」明治学院大学国際学部付属研究所主催公演セミナー「アラブの春」を考える—いくつかの視点からのアプローチ—, 2012 年 11 月 27 日, 明治学院大学横浜キャンパス (神奈川) (招待講演)

(36) イディリス・ダニシマズ「現代トルコにおけるスーフィズム タリーカのなかの『スーフィー』から社会の中の『奉仕者』への展望」日本オリエント学会 54 回大会, 2012 年 11 月 5 日, 東海大学湘南キャンパス (神奈川)

(37) Idiris DANISMAZ, “Arab Muslims’ Increasing Interest in the Civil Society Activities in Turkey: The “Hizmet” Movement and Hira Magazine of Turkey”, The 21st KAMES & The 9th AFMA International Symposium, The Middle East in Change: New Attempts for the Future (held by Asian federation of Middle East Studies Associations in BEXCO & Busan University of Foreign Studies), 2012 年 10 月 7 日, Busan (South Korea)

(38) イディリス・ダニシマズ「トルコの国際 NGO—キムセ・ヨク・ムによる東日本大震災支援活動—」日本中東学会第 28 回年次大会, 2012 年 5 月 12 日, 東洋大学白山キャンパス (東京) (招待講演)

〔図書〕(計 14 件)

(1) Hisae NAKANISHI “The Construction of the Sanction Regime against Iran: Political Dimensions of Unilateralism” in: Ali Z. Marossi & Marisa R. Bassett (eds.), *Economic Sanctions under International Law: Unilateralism, Multilateralism, Legitimacy, and Consequences*, Springer, 2015, pp23-41

(2) Ken MIICHI and Omar FAROUK (eds.) *Southeast Asian Muslims in the Era of Globalization*, Palgrave Macmillan, 2015, p271+xiii

(3) 見原礼子「ヨーロッパにおけるモスクの発展とノンフォーマルな学びの多様性」関啓子ほか (編) 『生活世界に織り込まれた発達文化 比較発達社会史への道』東信堂, 2015 年 (近刊)

(4) Masamichi IWASAKA “A Turkish Model of Civilianization?: The Recent Development of Democracy in Turkey” in: Idris Danismaz (ed.), *The Turkish Model: Reality and Applicability*, Graduate School of Global of Studies, Doshisha University, 2015, pp29-43

(5) 内藤正典 『イスラーム世界の挫折と再生』明石書店, 2014 年, 354 頁

(6) 見市建 『新興大国インドネシアの宗教市場と政治』NTT 出版, 2014 年, 238 頁 + iv

(7) 横田貴之「エジプトにおけるクーデタとムスリム同胞団」渡邊直樹編 『宗教と現代がわかる本 2014』平凡社, 2014 年, 120-123 頁

(8) 見原礼子「オランダにおけるムスリム移

民と市民性教育」近藤孝弘（編）『統合ヨーロッパの市民性教育』名古屋大学出版社、2013年、195-215頁

(9) 内藤正典・岡野八代（編）『グローバル・ジャスティス 新たな正義論への招待』ミネルヴァ書房、2013年、247頁

(10) 中西久枝「アメリカのグローバル・ジャスティスとイランのジャスティス」内藤正典・岡野八代（編）『グローバル・ジャスティス 新たな正義論への招待』ミネルヴァ書房、2013年、40-59頁

(11) Ken MIICHI and Omar Farouk (eds.) *Dynamics of Southeast Asian Muslims in the era of Globalization*, Japan International Cooperation Agency, Research Institute, 2013, p201

(12) 見市建「出版業にみる福祉政治党の『市場戦略』」床呂郁哉・西井涼子・福島康博編『東南アジアのイスラーム』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2012年、217-231頁

(13) 内藤正典『イスラームから世界を見る』筑摩書房、2012年、238頁

(14) 中西久枝「9・11事件後のイランの安全保障政策・中東地域外交と内政のニュアンス」吉川元・中村覚編『中東の予防外交』、信山社、2012年、175-192頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

内藤 正典 (NAITO, Masanori)
同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授
研究者番号：10155640

(2)研究分担者

中西 久枝 (NAKANISHI, Hisae)
同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授
研究者番号：40207832

見市 建 (MIICHI, Ken)
岩手県立大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：10457749

嶋田 晴行 (SHIMADA, Haruyuki)
同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員
研究者番号：50568110

見原 礼子 (MIHARA, Reiko)
長崎大学・多文化社会学部・准教授
研究者番号：70580786

ダニシマズ・イディリス (DANISMAZ, Idiris)
同志社大学・高等研究教育機構・助教
研究者番号：70631919

岩坂 将充 (IWASAKA, Masamichi)
同志社大学・高等研究教育機構・准教授
研究者番号：80725341

(3)連携研究者

横田 貴之 (YOKOTA, Takayuki)
日本大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：60425048